

平成 28 年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市美術館	市民ギャラリー・いなげ
条例上の設置目的	千葉市美術館条例（平成 7 年千葉市条例第 34 号）（抄） 第 1 条 本市は、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため、次のとおり千葉市美術館を設置する。	千葉市民ギャラリー・いなげ設置管理条例（昭和 63 年千葉市条例第 40 号）（抄） 第 1 条 本市は、市民の美術作品の発表及び鑑賞並びに制作のための施設として、次のとおり市民ギャラリーを設置する。
ビジョン （施設の目的・目指すべき方向性）	市民の創造的な文化・芸術活動を支えるべく、地道な研究の成果と高度な専門知識に裏付けられた質の高い事業を展開するとともに、市民利用をさらに促進していくこと。	幅広い世代の人々が親しく美術に触れ合う場、市民文化創造の拠点となること。
ミッション （施設の社会的使命や役割）	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と密接に結びついた市民参加型の美術館であること。 ・生涯学習の機能を兼ね備えた美術館であること。 ・首都圏の中で埋没することのない個性を備えた魅力ある美術館であること。 ・市民の文化・芸術の拠点として市の発展とともに成長する美術館であること。 ・現代から未来を志向し、国際的視野から市民の美意識を育てる質の高い美術館であること。 	<p>【市民に身近な芸術活動の拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品の展示・制作の場 ・美術作品の制作指導等の実施
制度導入により見込まれる効果	指定管理者制度導入により、利用者の視点に立ったきめ細やかな施設運営など、住民サービス・利便性の向上により、さらに多くの市民に両施設を利用してもらうという効果を見込んでいる。市としては、この制度導入効果を達成するため、指定管理者の企画運営により柔軟で多様な工夫が発揮されることや、専門性の発揮により、魅力・特色ある施設運営が行われ、さらなる来館者の増加に寄与されることを期待する。	
成果指標※	① 展覧会入場者数 ② 施設稼働率	① 利用者数（市民ギャラリー・いなげ） ② 利用者数（旧神谷伝兵衛稲毛別荘） ③ 施設稼働率
数値目標※	① 152,000人以上 ② 48%以上	① 32,400人以上 ② 10,800人以上 ③ 54%以上
所管課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課	

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	公益財団法人 千葉市教育振興財団	
構成団体 （共同事業体の場合）		
主たる事業所の所在地 （代表団体）	千葉県千葉市中央区弁天 3 丁目 7 番 7 号	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日（5 年）	
選定方法	非公募	
非公募理由	施設の設定経緯及び美術館としての機能、業務の特性等により、管理運営は同一団体が継続して担うほうが合理的かつ効率的であるため。	展覧会の企画や講習会の実施等に当たり美術品の展示に関する専門性を要するとともに、隣接する国登録有形文化財（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）の管理に係る経験等も要求されるものであるため。
管理運営費の財源	指定管理料	

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

ア 千葉市美術館

成果指標	数値目標※	H28年度実績	達成率
展覧会入場者数	152,000人以上	127,174人	83.7%
施設稼働率	48%以上	45.7%	95.2%

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

成果指標	数値目標※	H28年度実績	達成率
利用者数 (市民ギャラリー・いなげ)	32,400人以上	37,666人	116.3%
利用者数 (旧神谷伝兵衛稲毛別荘)	10,800人以上	13,308人	123.2%
施設稼働率	54%以上	59.1%	109.4%

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

(2) その他利用状況を示す指標

指標	H28実績
友の会会員数(普通会員数) 2,500人	1,445人
友の会会員数(賛助会員数) 50人	19人(個人)、3件(法人)

4 収支状況

(1) 必須業務収支状況

ア 収入

費目	H28年度	【参考】 H27年度	計画実績差異・要因分析			
			差異	主な要因		
指定管理料	実績	283,890	246,259	実績－計画	0	
	計画	283,890	246,259	計画－提案	0	
	提案	283,890	255,779			
利用料金収入	実績	11,584	56,107	実績－計画	△ 1,369	施設利用件数が見込みを下回ったため
	計画	12,953	56,026	計画－提案	0	
	提案	12,953	48,773			
その他収入	実績	46,316	17,316	実績－計画	△ 25,544	展覧会入館者数が見込みを下回ったため
	計画	71,860	17,316	計画－提案	1,000	
	提案	70,860	13,159			
合計	実績	341,790	319,682	実績－計画	△ 26,913	
	計画	368,703	319,601	計画－提案	1,000	
	提案	367,703	317,711			

イ 支出

費目	H28年度	【参考】 H27年度	計画実績差異・要因分析			
			差異	主な要因		
人件費	実績	126,293	116,310	実績－計画	△ 2,945	給与改定により減額したため
	計画	129,238	118,084	計画－提案	1,254	給与改定により増額したため
	提案	127,984	128,680			
事務費	実績	40,286	181,797	実績－計画	△ 21,392	光熱水費等の節減に努めたため
	計画	61,678	194,269	計画－提案	565	
	提案	61,113	165,475			
管理費	実績	0	26,929	実績－計画	0	
	計画	0	22,804	計画－提案	0	
	提案	0	23,556			
委託費	実績	9,783	0	実績－計画	△ 596	
	計画	10,379	0	計画－提案	△ 36	
	提案	10,415	0			
その他事業費	実績	142,171	0	実績－計画	△ 14,146	消耗品費、委託費等、節減に努めたため
	計画	156,317	0	計画－提案	△ 783	
	提案	157,100	0			
本社費・共通費	実績	13,195	0	実績－計画	2,104	事務局の人員増によるため
	計画	11,091	0	計画－提案	0	
	提案	11,091	0			
合計	実績	331,728	325,036	実績－計画	△ 36,975	
	計画	368,703	335,157	計画－提案	1,000	
	提案	367,703	317,711			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

※28年度と27年度では指定管理期間が異なるため、費目の内訳も一部異なる。

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

公益法人会計基準に則り、6つ（公1～公3、収1・2、法人）の会計区分とし、本部経費（役員、事務局職員人件費及びその他管理経費）は、従事割合等の配賦基準により配賦。配賦基準は①役員、事務局職員人件費にあつては従事割合、その他管理経費にあつては従事割合または使用割合。
配賦基準により法人全体の管理会計に配賦した費用から基本財産、特定資産の運用益等を控除した差額を、法人会計以外の5つの会計区分へ配賦した額の割合で按分。

(2) 自主事業収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費目		H28年度	【参考】 H27年度
自主事業収入	実績	1,760	7,511
その他収入	実績	0	0
合計	実績	1,760	7,511

イ 支出

(単位：千円)

費目		H28年度	【参考】 H27年度
人件費	実績	466	1,290
事務費	実績	46	3,908
管理費	実績	0	0
委託費	実績	222	0
使用料	実績	0	0
事業費	実績	1,734	199
利用料金	実績	37	9
その他事業費	実績	0	0
本社費・共通費	実績	113	0
合計	実績	2,618	5,406

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

公益法人会計基準に則り、6つ（公1～公3、収1・2、法人）の会計区分とし、本部経費（役員、事務局職員人件費及びその他管理経費）は、従事割合等の配賦基準により配賦。配賦基準は①役員、事務局職員人件費にあつては従事割合、その他管理経費にあつては従事割合または使用割合。配賦基準により法人全体の管理会計に配賦した費用から基本財産、特定資産の運用益等を控除した差額を、法人会計以外の5つの会計区分へ配賦した額の割合で按分。

(3) 収支状況

(単位：千円)

		H28年度	【参考】H27年度（左：千葉市美術館、右：千葉市民ギャラリー・いなげ）	
必須業務	収入合計	341,790	293,112	26,570
	支出合計	331,728	300,100	24,936
	収支	10,062	△ 6,988	1,634
自主事業	収入合計	1,760	7,357	154
	支出合計	2,618	5,193	213
	収支	△ 858	2,164	△ 59
総収入		343,550	300,469	26,724
総支出		334,346	305,293	25,149
収支		9,204	△ 4,824	1,575
利益の還元額				1,575
利益還元の内容			【千葉市民ギャラリー・いなげ】 1. 第2・3展示室の壁面に展示物固定用ピン等を打ちやすくするため、合板材を設置。 2. 第1制作室を多くの作品を展示できるようにするため、間仕切りを設置。 3. 節電のため、展示室等のスポットライトをLEDライトに交換。	

※H27年度は、前期指定管理期間であり、千葉市美術館及び市民ギャラリー・いなげは別々に指定管理者を選定しているため、千葉市民ギャラリー・いなげのみ利益の還元が生じた。

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

ア 千葉市美術館

評価項目	市の評価	特記事項
展覧会入場者数	D	
施設稼働率	C	

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

評価項目	市の評価	特記事項
利用者数（市民ギャラリー・いなげ）	B	
利用者数（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）	A	
施設稼働率	B	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	C	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

－：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目		自己評価	市の評価	特記事項
1 市民の平等利用の確保・施設の適正管理	市民の平等利用の確保	D	D	平成28年4月1日付で施設の使用許可に関する申請書等の様式を改定ものの改正前の様式を継続使用。施設の使用許可にあたって、指定管理者としての自主事業において、審査基準に満たない事業があった。(1事業のみ)
	関係法令等の遵守			
	リスク管理・緊急時対応			
2 施設管理能力				
(1) 人的組織体制の充実	管理運営の執行体制	C	C	
	必要な専門職員の配置			
	従業員の能力向上			
(2) 施設の維持管理業務	施設の保守管理	C	C	
	設備・備品の管理・清掃・警備等			
3 施設の効用の発揮				
(1) 幅広い施設利用の確保	開館時間・休館日	C	C	
	利用料金設定・減免			
	利用促進の方策			
(2) 利用者サービスの充実	利用者への支援	C	C	
	利用者意見聴取・自己モニタリング			
(3) 施設における事業の実施	施設の事業の効果的な実施	C	C	
	自主事業の効果的な実施			
4 その他				
	市内業者の育成	C	C	
	市内雇用への配慮			
	障害者雇用の確保			
	施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】

- A：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
 D：一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
 E：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 市民局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
	平成 年度	
	平成 年度	

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

ア 千葉市美術館

実施内容	調査方法	展覧会の会場にアンケート用紙・ボックスを設置し、来場者の意見等を収集した。
	回答者数	1,196件
	質問項目	年齢、性別、住所、交通手段、展覧会を知った媒体、来館回数、展覧会の感想、その他本施設に対する意見
結果	<p>ア 回答者の属性：</p> <p>年齢 (10歳未満 2.1%、10代 4.8%、20代 5.9%、30代 8.2%、40代 15.8%、50代 17.8%、60～64歳 9.9%、65～69歳 13.0%、70代 15.7%、80歳以上 4.8%、無回答 1.8%)</p> <p>性別 (男性 40.1%、女性 57.8%、無回答 2.1%)</p> <p>住所 (市内 33.9%、県内 32.4%、都内 16.6%、その他 15.6%、無回答 1.4%)</p> <p>イ 交通手段：</p> <p>J R千葉駅より徒歩 30.4%、J R千葉駅よりバス 10.6%、J R千葉駅よりタクシー 0.8%、京成千葉中央駅 9.1%、モノレール 5.5%、自家用車 22.0%、自転車 3.5%、その他 5.6%、無回答 12.5%</p> <p>ウ 展覧会を知った媒体 (複数回答)：</p> <p>新聞 23.0%、雑誌・ミニコミ 3.0%、テレビ・ラジオ 4.4%、チラシ 21.3%、ポスター 10.5%、市政だより 4.0%、知り合いから 6.6%、友の会・美術館ニュース 6.0%、千葉市美術館ホームページ 14.5%、その他インターネットサイト 6.4%、館に来て 3.2%、その他 13.3%</p> <p>エ 来館回数：</p> <p>はじめて 26.8%、2～3回 18.6%、4～5回 11.5%、6回以上 40.7%、無回答 2.4%</p> <p>オ 感想：</p> <p>大変よかった・期待以上 62.0%、よかった・期待どおり 27.7%、普通 5.3%、あまりよくなかった 0.8%、よくなかった・期待はずれ 0.3%、無回答 3.9%</p>	

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

実施内容	調査方法	ギャラリー棟・別荘にアンケート用紙と回収箱・ギャラリー棟に意見箱を用意し、来館者の意見を収集した。
	回答者数	477件
	質問項目	来館日、性別、年齢、住所、利用施設、申込・受付方法、施設の管理・清掃、受付・窓口の対応、気づいた点
結果	<p>ア 回答者の属性：</p> <p>年齢 (10代 8%、20代 4%、30代 5%、40代 11%、50代 11%、60代 24%、70代 31%、80代以上 6%)</p> <p>性別 (男性 44% 女性 56%)</p> <p>住所 (中央区 7%、花見川区 8%、稲毛区21%、若葉区 5%、緑区 1%、美浜区19%、その他 39%)</p> <p>イ 利用施設：ギャラリー棟 48%、別荘52%</p> <p>ウ 申込み・受け付け方法：今のままでよい 93%、改善してほしい 7%</p> <p>エ 清掃状況：</p> <p>ギャラリー棟 (良い 87%、普通 13%、良くない 0%)</p> <p>別荘 (良い 96%、普通 4%、良くない 0%)</p> <p>オ 窓口・受付対応：</p> <p>ギャラリー棟 (良い 89%、普通 10%、良くない 1%)</p> <p>別荘 (良い 95%、普通 5%、良くない 0%)</p>	

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

ア 千葉市美術館

主な意見・苦情	指定管理者の対応
受付が何階にあるのか表示がなく、不親切だ。改善してほしい。	表示はしていたが、1階通路やエレベーターホールの案内板に追加し、よりわかりやすくした。
ロッカー使用の際、取り出した荷物を置く小机をぜひ置いてほしい。	机を設置した。

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

主な意見・苦情	指定管理者の対応
駐車スペースが少ない。	満車時は千葉市ゆかりの家・いなげの駐車場を案内するなどして、現状のスペースでご理解いただいている。
道中の案内看板がわかりづらい。	稲毛公園内の案内看板増設について、検討中。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

総括評価	B	所見	<p>【美術館】 展覧会では、平均して87パーセントの来館者が「大変よかった」または「よかった」との感想を持っており、満足度が高い。マスコミ等の評価も高く、「岡崎和郎のWho's Who」展は、美術館連絡協議会奨励賞を受賞した。また図録の購入率では、特に「吉田博」展において、一般的な購買率の2倍ほどにあたる6.7人に1人が図録を購入しており、深い関心を得ることができた。一方で、おもてなしICT協議会への協力、文化庁の助成事業など、オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みにも積極的に参加しており、将来に向けた事業展開の基盤を築くことができた。</p> <p>【いなげ】 ・地域アートの拠点として、千葉在住の若手作家の発掘・紹介を積極的に行った。また、ギャラリートークやコミュニティカフェを実施し、世代やジャンルを超えた交流の場づくりにも力を入れた。 ・高齢化に伴う制作室の利用者減への対策として、地域人材を活かした新たなサークル活動立ち上げの支援を行った。</p> <p>・「海の記憶を伝える稲毛」をテーマに、近隣施設と連携した「観光地いなげ展」、街の記憶を語り合う「稲毛お話し会」を開催。地域文化の中核としての役割を見出すことができた。 ・展示室照明のLED化、壁面の改修・増設を行い、利用者にとって魅力ある空間づくりにも力を入れた。</p>
------	---	----	--

(2) 市による評価

総括評価	C	所見	<p>【美術館】 概ね計画通り、良好に管理運営が行われている。企画展では、賞を受賞するなど、努力がうかがえる。アンケート調査では、満足度が高く評価できるものの、展覧会や貸出施設等の利用者数が前年と比べ下回っていること、数値目標の達成状況から、より一層宣伝・集客等に努めていただきたい。</p> <p>また、イベント等の開催にあたり関係法令等を遵守し、更なる工夫に努めていただきたい。</p> <p>【いなげ】 概ね計画通り、良好に管理運営が行われている。ギャラリー棟・旧神谷伝兵衛稲毛別荘ともに昨年度に比べ利用者数が増加しており、評価できる。旧神谷伝兵衛稲毛別荘については、アンケートでの満足度が高く、努力していることがうかがえる。また展示事業や連携事業では、今後も幅広い世代の方が利用できるよう更なる工夫に努めていただきたい。</p>
------	---	----	--

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 市民局指定管理者選定評価委員会の意見

ア 市の作成した年度評価案の妥当性について	市の作成した年度評価案の内容は、妥当であると判断される。
イ 管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点等について	<p>(ア) 美術館について、施設の場所が分かりやすいよう、周辺にのぼりを掲示するなど、広報活動に努力している点は評価できる。</p> <p>(イ) 美術館について、利用者数を増加するため、学校との連携を図るなど、実際に足を運んでもらうような方策を検討されたい。</p> <p>(ウ) 市民・ギャラリーいなげについて、施設の効果的なPRにより、利用者数が増加している点は評価できる。</p> <p>(エ) 指定管理者の財務状況については、提出された計算書類等の資料に基づいた判断であることを前提とするが、赤字計上が続いているものの、収支均衡に努めていくとのことであり、事業継続が直ちに困難になると考えにくく、倒産・撤退のリスクはないと判断される。</p>